『ラブ・スターズ・デイ』

天の星と海の人魚が出会う日

作　高橋広間

登場人物

サーシャ・ナミ　（f）沿岸警備隊司令官
ネモ　（m）沿岸警備隊副司令官
ルー　（f）沿岸警備隊幹部
レイ　（f）沿岸警備隊幹部
タチ・ヒロシ　（m）町の名物男
女　（f）人魚

声A　波の音（ルー）
声B　波の音（ネモ）
声C　波の音（レイ）
声D　波の音（タチ）
声E　波の音（サーシャ）
声F　波の音（レイ）
声G　波の音（タチ）
声H　波の音（ネモ）
声I　アナウンス

第一場

月明かり。波の音。
珊瑚礁の海を見渡す海岸。
時には一人の、時には数人の声。言いようもない寂しい旋律が波の間に響きわたる。

声（女）　満月の夜、珊瑚礁の海に舟を漕ぎ出すと、美しい調べが聞こえてくることがあります。妙に透みきったその歌声に心を奪われ、舟乗りたちが思わず振り返った時、…舟は潮に流され、岩に砕かれ、そして沈んでゆく。古くからの言い伝えは「人魚の声に耳を貸すと、
声A　人魚の声に耳を貸すと、
声B　人魚の声に耳を貸すと、
声C　不幸になる
声D　不幸になる
声E　不幸になる…」

いくつもの声を波がさらってゆく。
メロディがまだ残る中、女、沿岸警備隊幹部ルー、レイ、副司令官ネモが登場。

ネモ　ここか、奇妙な声が聞こえる場所というのは？
女　はい。
ネモ　…わからん。
女　何かメロディのようなものが聞こえませんか。
ネモ　どれ？

4人、耳をすます。ルーには何か聞こえている。うろたえる。
レイにも聞こえるような気がしている。
女は聞こえるふりをしている。
そしてネモは、何も聞こえていない。

ネモ　どうした、ルー？　何か聞こえたのか？
ルー　い、いえ…。
ネモ　そう、それは残念だな。君に声が聞こえたとなれば、人魚がいるという大きな証拠になるのにな。…それともまさか、人魚の声が聞こえているのに、士官学校で学んだ進化論に反するからと、聞こえないふりをしているんじゃないだろうな。
ルー　いいえ、聞こえておりませんっ！

ネモ　冗談だ。ムキになるなよ、ルー。
レイ　（女に）その声はいつから聞こえているの？
女　いつからかはちょっと。でも、月の出ている夜に必ず。
ネモ　ふーん…？
レイ　毎夜必ずね。時刻は？
女　月がこの方角にある時に。
ルー　真南ね。
レイ　ほかには？
女　人魚の姿を、何度か。
ルー　人魚を？！
レイ　見たの？
ネモ　…？。
女　ええ。サンゴ礁の果ての、ちょうどあのあたりにキラリと光って…。じっと止まったまま、こちらを見つめているように。
レイ　密漁者じゃないかしら？
ルー　あのあたりは潮の流れが速すぎて漁には向かないわ。それに、密漁者の船ならば警備隊のレーダーに反応するはずよ。
ネモ　じゃあ、本物の人魚？
4人　…。

4人、それぞれの人魚についての思いに、もう一度耳をすます。メロディが、印象的な余韻を残して消えてゆく。

ルー　消えた…。
レイ　…気のせいだったのかしら。
ネモ　何も聞こえんな。
女　…。
レイ　副司令官。どうしますか、司令官への報告は？
ネモ　ルーに聞いてみなさい。人魚の件はルーの担当でしょ。
レイ　ルー。
ルー　（あわてて）レイ、バカなことを聞かないで。人魚の声が聞こえるなんて、そんな。
女　でも本当に聞こえるのよ。
ネモ　海は自然のオーケストラだ。メロディを奏でることもあるだろう。
レイ　あなたには何と聞こえるの？
女　人魚の声を耳にすると不幸になる。
ルー　なるほど。金魚と鯉が見合いをすると不釣合いになる？
女　はあ？「人魚の声を耳にすると不幸になる」
レイ　インカの謎に恋をするとブルーになる？

ネモ　ミンクのコートを夏に買うと付録がつく？
3人　（声を合わせて）聞き違いじゃないのか？
女　（ムッとして）どういうことです？
ルー　こういうことですよ。
レイ　あなた、何者なの？

3人、女に剣を突きつける。

女　何者って…。
ルー　沿岸警備隊があなたの話に、ただ、のこのこついてきたと思っているの？
ネモ　私を甘く見るなよ。副司令官のネモと言えば、本来は司令官になっているはずの男だ。お前の怪しい行動を見逃すと思うか？。

レイ、女に縄をかける。

ルー　この珊瑚礁のひろがるマーメイド・ビーチは、人魚の声がすると昔から言われている。だから、島の人間は誰一人、夜はこの海岸には近づかないわ。
レイ　たとえ何も知らない観光客だったとしても、毎夜毎夜この海岸で声を聞いているのは普通じゃないわ。何を企んでいるの？
女　…。
レイ　本当に声が聞こえるなんて、妙な噂を流されると困るのよ。本国から観光客がつめかけて、この島の豊かな自然が失われることになる。
ルー　いいえ、観光客が増えるのは悪い事じゃない。でもこの島のイメージは、もっと明るく美しい。本国の王女様だって、おとぎの国だからこそこの島を愛しておられるんです。
レイ　青い空。
ルー　緑の海。
レイ　赤い夕日。
2人　白い珊瑚礁。
ルー　小麦色のマーメイド！
ここは昔から「人魚の国に一番近い島」なんです。不幸な話は似合わないわ。
ネモ　聞こえもしない人魚の声をでっちあげてまで、我々、沿岸警備隊をここに連れ出したのはなぜだ？　警備隊への挑戦にしてはおそまつだったな。

レイ、女を中央に連れだす。

ネモ　もうすぐこの島は、ラブスターズデイの祭りに入る。本国から王女様もおいでになるこの時期に、怪しい人間を放っておくほど、私たちは寛大では

ないのだよ。
ルー　このビーチの声の話、誰から聞いたの？
女　べつに。
レイ　でも、人魚の話をペラペラと喋る人間は、他にはいないわ。
ルー　そうね。この島の名物男。
ネモ　あいつか。
３人　（それぞれに納得して）タチ・ヒロシ！

音楽とともに、タチ・ヒロシが登場。
一方では、女を先頭に、彼女を突きとばすように、ルー、レイ、ネモ退場。
何かに跳ねとばされるように、ネモ、レイ、ルーが後ろ向きに飛びこんできて倒れる。あわてて縄をたぐると、誰もいない。

ネモ　お前らがぼんやりしているからだ！

３人、走り去る。女登場。してやったりの顔で３人を見送る。

女　ああ驚いた。さすが沿岸警備隊ね。すっかりバレていたなんて。

音楽、終わる。朝である。

タチ　さわやかな朝だ！　今日こそはこの島を出る。珊瑚礁を越えれば、見渡す限りの大海原だ。どこまでも続く水平線。
女　水平線！
タチ　降り注ぐような満天の星。
女　満天の星！
タチ　そして人魚姫の伝説。
女　伝説！
タチ　海には男の―
女　（ついタチの前に出て）ロマンがある！
タチ　……。（場所を改めて）海には男の―
女　（つい前に出て）ロマンがある！
タチ　……。（女を気にしながら）海には、海には男の…、海には…、何なんだ、君は！
女　え？
タチ　このあいだから俺につきまとっているけど、一体どういうつもりなんだ。
女　あのね、私はあなたが不幸になりそうな気がするの。
タチ　とっくになっているよ。このさわやかなひとときを邪魔されたんだから。

女　そうじゃなくて。
タチ　俺はいつだって不幸さ。いままでずっと不幸だったし、これからもずっと不幸に決まっている。
女　どうして？
タチ　旅行雑誌やファッション誌の特集記事を読んでいないの？　この島の名物、本気で人魚を信じている気の狂ったかわいそうな男の話さ。ずっと昔、俺は人魚の子供を助けたことがある。色気も何もなかったけど、あれはまぎれもない人魚だった…。って、君みたいな観光客が、たったそれだけの話を聞いて、笑いこけて帰っていくんだ。
女　……。
タチ　島の人の話は？
女　？
タチ　その時、理科の先生に人魚に会ったことを話したら、ちっともとりあってくれなかった。しかたなく作文にして出したら、国語の先生にも叱られて。算数の時間にも社会の時間にも、音楽や体育でもずーっとその話をしていたら、それ以来、すっかり誰にも相手にされなくなってしまった。この島には気違いの言うことを信じる奴は、一人もいないのさ。
女　私は信じるわ。
タチ　？　え？
女　私は、信じる。
タチ　気違いを信じるなんて気違い沙汰だ。
女　私はあなたのファンだから。
タチ　ファンか。…昔、なぎさっていう女の子が、君と同じようなことを言っていたっけ。人魚の話に、目をキラキラと輝かせながら聞き入ってくれた。でも、ある日急にいなくなってしまったんだ。俺に黙って、本国行きの船で旅立って行ったと、あとから知った…。そして、なぎさの乗ったクイーンスコチア号は、水平線の向こう側で突然の落雷に合い、沈没した…。…誰も助からなかった。１０年前の嵐のラブスターズデイの日ね。
女　でも俺には、なぎさが死んだなんて今でも信じられな…、いや、昨日までは信じられなかった。でも今日からはもう信じる。（思い出して）そうだ。
タチ　（書類を出して）これにサインして。
女　「私はあなたにフラレました」　何、これ？
タチ　失恋証明書さ。
女　私、あなたのこと嫌いじゃないよ。
タチ　いいんだよ。これを持って、「フラレました」って言うと役所でお金をくれるんだ。
女　お金？
タチ　そう。お金。
女　おっかねえもの？

タチ　（あきれて）おっかなくないよ。それを持っていれば、欲しい物が何でも手に入るんだ。
女　それを持っていれば、あなたは幸せになれるの？
タチ　マぁネー。
女　ふーん。（サインする）あ・た・し・の・サ・イ・ンっと。はい。（渡す）
タチ　サンキュ。さてと、行くか。
女　？　どこに行くの？
タチ　海さ。人魚が俺を呼んでいるんだ。
女　そうかしら。
タチ　そうさ。俺を呼ぶ運命の声がする。
女　悪魔の声かもしれないでしょ。
タチ　…どうしてそういうことを言うんだ？
女　どうしてそんなにあわてているの？　べつに、今すぐこの島を出なくてもいいじゃない。もうすぐラブスターズデイ。天の星と海の人魚が年に一度だけめぐりあえるチャンスなのよ。いいことがあるかもしれないじゃないの。今まで何年も、なぎささんが帰ってくるのを待っていたのに、どうしてあと少しが待てないの？
タチ　やめてくれ。俺は心に決めたんだ。今日こそはこの島を出る。今、出なければ、また決心が鈍ってしまう。
女　（やさしく）海なんて何もないのよ。
タチ　何もなくていい。海には男の―
女　（条件反射で）ロマンがある！
タチ　海には男の―
女　（条件反射で）ロマンがある！
タチ　男のロマンに女は（ポーズをつけて）女は似合わないぜ。

タチ、走り去る。

女　（呆然と見送るが）ま、いいか。

女、追って退場。

第二場

警備隊司令部。警備隊司令官サーシャ・ナミ登場。
ネモ登場。

ネモ　おはようございます、サーシャ司令官。ネモ副司令官、まいりました。
サーシャ　おはよう。
ネモ　何のご用でしょうか。
サーシャ　ネモ、また今朝休んだわね。ダンスの早朝練習は司令部の義務です。
ネモ　またその話ですか。司令官、他にすることがあるでしょう。あの満月の夜ごとの連続遭難だって、まだ未解決なんですよ。
サーシャ　あれは大丈夫。満月の夜に船を出さなければいいのよ。しばらく遭難は起きていないわ。
ネモ　ラブスターズデイの祭りはもうすぐですし。

ルー登場。サーシャにデータを渡す。

ルー　警備の進行状況です。
サーシャ　（見ながら）今のところ、すべて順調よ。
ルー　あとは、島のみんなや本国のお客様、そしてあの王女様にどれだけ気持ちよく過ごしていただけるかが、私たちの仕事ですね。ね、副司令官。

レイ登場。

ネモ　そのために、朝早くから楽しい踊りの練習をしているわけですか。（あきれて）それが警備隊の仕事か？
ルー　アトラクションも業務の一環です。
レイ　そうですよ。消防局も施設局もみんな余興を用意しているんですよ。教育部なんかぬいぐるみショーですって。
ネモ　レイ、いいかげんにしろ！（サーシャに）この島が平和なのは結構なことです。しかしこんなにふざけた雰囲気で、いざという時どうなりますかね。司令官は真剣です。
ルー　ルー、若い人の考えることはわかりませんな。前任のさざなみ司令官の頃は、この司令部にはもっと緊張感があったわ。それが今では全くない。
ネモ　けじめはつけているわ。勝負にはなるべく楽に勝つこと、ふだんは楽しく過ごすこと。これが司令官としての私の方針よ。ネモ、私が赴任してもう一年になるのだから、そろそろ慣れて欲しいわね。
サーシャ　……。
ネモ　ところで、私に報告はない？

ネモ　は？
サーシャ　昨夜、マーメイド・ビーチで何をしてきたのかしら？

ネモ、驚いてルーをにらみつける。ルー、レイ、きょとんとしている。

サーシャ　（3人を見渡して）どうしたの？
ネモ　はい。ルー、報告しろ。
ルー　はい…。昨夜、ネモ副司令官と2名とでマーメイド・ビーチへ行きました。それは、人魚の声が聞こえるという不審な人物からの通報があったからですが、声は聞こえませんでした。以上です。
サーシャ　不審人物は取り逃がしましたのね。
ネモ　ずいぶん細かくご存知ですね。私たちに、監視カメラでもついているようだ。
サーシャ　ネモ、あなたが教えてくれたのよ。
ネモ　フン、やっぱりな。（気づいて）私が？！
サーシャ　昨夜、展望室で星を見ていたの。そうしたら、マーメイド・ビーチの方へ行く光が見えた。堂々とクルマのライトをつけて行くなんて珍しいな、と思っていたら、さっきネモの靴の裏にあのビーチの砂がついていたから、もしかしたらと思って聞いてみたのよ。
ネモ　チッ。（小さく舌打ちをする）
レイ　取り逃がしたことはなぜ？
サーシャ　逮捕したなら本人が拘留されているはずでしょ。そういう報告は来ていないわ。
レイ　なるほど。
ネモ　以上です。他にご用がなければ、私はこれで。

ネモ、去りかける。

サーシャ　…その人物は、本当に人魚の声を聞いたの？
ルー　ええ。そう信じているようでした。
サーシャ　一度、話を聞いてみたいわね。
ルー　すぐ手配いたします。

ルー、退場。

ネモ　（戻ってきて）もしかすると、その人物が連続遭難事件の手がかりになる、とお考えですね。
サーシャ　私は、あの遭難は人魚のせいとは考えていないのよ。

ネモ　司令官。あなたが本国の士官学校でどれだけ優秀だったか知らないが、私はここで5年も副司令官をしている。この島については私の方がよく知っています。あの遭難は、明らかに人魚が起こしています。

サーシャ　証拠はあるの？

ネモ　証拠？

サーシャ　たとえば、目撃者の証言。

ネモ　人魚を見た者は二度と生きては帰れません。

サーシャ　写真は？

ネモ　狐狸妖怪のたぐいは写真には映りません。

サーシャ　声を録音したテープは？

ネモ　雑音が入って聞きとれません。

サーシャ　ほらね。証拠は一つもないじゃない。

レイ　（真剣に）伝説があります。

サーシャ　伝説ね。

ルー登場。

レイ　人間の男を愛したために不幸になった、人魚姫の物語です。愛してもらえずに、海の水の泡として消えてゆくことになった人魚の運命は、「愛することは愛されてこそ報われる」という一つの触れてはならない事実です。人魚姫は王子の胸をナイフで突き刺すことができず、海に飛び込み、その心の優しさによって魂を与えられたという。だが、それはナントカいう女々しい童話作家の創作だ。愛だけしかとりえのない人魚姫が、自ら身を投げたくらいで魂を手に入れられるほど世の中は甘くないの。人魚はしょせん人魚。水の泡として消える運命だ。（言い過ぎたことに気づいて）いや、そんな人魚が私は好きだ。

サーシャ　２００年も３００年も前の伝説ね。いつまでそんなものを信じているの。

ルー　そうですよ。科学の発達によって姿を消していった者が、今頃また姿を現すものですか。

レイ　歴史の記録からは姿を消しても、人々の記憶には残っています。たとえば“人魚のダイアリー”の噂。

サーシャ　噂は、噂にすぎないわ。

ネモ　何だ、その人魚のダイアリーというのは？

ルー　１０年前、クイーンスコチア号の遭難から一ヵ月後、マーメイド・ビーチに流れ着いたという一冊のダイアリーの噂です。

ネモ　一ヵ月後？　それじゃ水をふくんでボロボロだろう？

レイ　ボッロボロでした。

ネモ　何が書いてあるかもロクにわかるまい？

レイ　ぜっんぜんわかりません。

ネモ　それが何かの役に立ったとは思えないが。
レイ　それが何の役にも立たなかったんです。
ネモ　…何の意味があるんだ、その話に。
ルー　ですから、人魚のダイアリーの話は、噂にはなりましたが、記録には残されなかったんです。
レイ　でも、人魚は永遠に不滅よ。この世のものが何でも自分の五感に触れると思ったら大まちがい。貨物船の転覆、タンカーの沈没、嵐による遭難、津波、海底火山、土左衛門。海にまつわるあらゆる事件は、今でも人魚の仕業だもの。「愛することは愛されてこそ報われる、愛が報われなければ災いをもたらす」これが人魚の宿命です。
サーシャ　なるほど。すると、意地悪く言えば、この島のどこかに人魚がいて、愛が報われない腹いせに災いをおこしている、ということになってしまうわ。大胆すぎる推理ね。
ネモ　私は、大胆な事実だと思いますよ。

サーシャ、ネモ、一瞬にらみあう。

ルー　司令官。副司令官がそこまで言われるのなら、この島のどこかにいるという人魚を、一度探してみてはいかがですか？
レイ　珍しいわね。ルーが私たちの味方をしてくれるなんて。
ルー　いいえ。人魚がいないことを証明するために。
サーシャ　（肩をすくめて）わかったわ。それでは、「報われなかった愛」のデータをとりだして、遭難事故との相関関係を調べればいいわけね。
ネモ　待ってください。「報われなかった愛」のデータなんて、どうやって調べるんですか？
レイ　副司令官、あれですよ。自己申告制の失恋報告書の集計データのことです。
ネモ　（苦々しく）あれか。
レイ　あの制度のきっかけも人魚の噂した。クイーンスコチア号が遭難した時、落雷の大音響の中に「さよなら」という女の声が聞こえたと誰かが言い出して、島中に人魚の仕業だという噂がひろまったんです。
ルー　あやうく人魚狩りの大暴動になりかかった時、当時のさざなみ司令官が、合理的に人魚を見つける方法としてこの制度を提案したんです。自分自身で「失恋した」と申告して、自分が人魚でないことを公に宣言するという仕組みと、その本人に多少の手当金を支給するという条件に気をとられて、民衆の疑心暗鬼は解消し、暴動は事前に抑えられました。
ネモ　立派な司令官だった。誰かさんとは大違いだ。
サーシャ　ネモ、システム管理センターへ行って回帰分析にかけたデータを。個人情報に関わるから、あなたのＩＤでなければアクセスできないわ。よろしくね、ネモ。

ネ　モ　はい。

ネモ、退場。

サーシャ　（時計を見て）まだ時間があるわね。じゃあ復習しましょう。

３人ダンスの練習を始める。
軽く　ＭＩＮＩ　ＳＨＯＷ　ＴＩＭＥ

ネモ、息を切らして飛び込んでくる。

ネ　モ　司令官。分析の結果があがりましたっ！

サーシャ、データを受け取る。

サーシャ　レイ。あなたの言うとおりならば、災いを起こしている人魚はこの中の女だということになるわ。遭難を防ぐにはその女を逮捕すればいいわけね。

レイ・ルー　いけません！

２人、思わず顔を見合わせる。

レ　イ　相手は人魚ですよ。逮捕して機嫌を損ねると逆効果、ますます被害を大きくするだけです。

サーシャ　では、どうするの？

レ　イ　人魚が災いを起こすのは、愛してもらえなかった仕返しなんです。だから遭難を防ぐには、その人魚の愛が報われればいい。誰かが自分の愛をなげうって、人魚の愛に答えてやればいいんです。

サーシャ　人魚に愛された男一人があきらめれば、まるくおさまるというわけね。

ネ　モ　（つぶやくように）男…。

ル　ー　どうしたんですか、副司令官。まさか、身に覚えのある女性が人魚だったとか？

ネ　モ　決めつけるな！いいか、人魚は、人魚は男だ！

サーシャ　人魚は男！？

３人、ちょっと想像する。

ル　ー　…想像できない。

レ　イ　…想像したくない。

サーシャ　この、一番ポイントの高いのは？

ネモ　住民登録番号Ｓ‐３００２。通称、タチ・ヒロシ。

３人、ちょっと想像する。

ルー　…想像できない。

レイ　…でも、かわいいかもしれない。

ルー、データを受け取って見る。

ルー　たしかに、遭難のあった日に必ず失恋しているのはタチ・ヒロシだけですね。

ネモ　いや違う。何かからくりがあるはずだ。（データを見直す）そうだ。やっぱり、思ったとおりだ。これは数字のマジックですよ、ほらここ。

サーシャ　なるほど。遭難した日だけでなく、他の日にも毎日失恋しているわ。それどころか、１日に５回も６回も失恋している。

ネモ　毎日失恋していれば、遭難のあった日に失恋しているのは当たり前。こんなデータに頼ろうとしたのがまちがいだ。

レイ　でも、タチ・ヒロシにはこんな話があります。１０年前の人魚のダイアリーには読み取れる言葉が２つだけあって、１つはそのダイアリーの持ち主の名前「ナギサ」、そしてもう１つが「タチ・ヒロシ」だった、と。

ネモ　それは、あいつのことか？

レイ　さあ…。それどころかその噂自体、誰が言い出したことか。ただ、タチ・ヒロシはあの頃から変わり者でしたし、何かがあっても不思議はないと思います。

ルー　どちらにしても、本人に直接聞くほうが早いんじゃありませんか。どうですか、司令官。

ネモ　サーシャ司令官。

サーシャ　わかりました。行きましょう。

３人　はいっ！

サーシャ、ルー、退場。レイはネモに呼びとめられる。

ネモ　レイ。人魚のダイアリーの話、島の人間はみんな知っているのか？

レイ　はい。有名な話ですから。

ネモ　そのダイアリー、一度見てみたいものだな。どこにあるんだ？　図書館か、博物館か？

レイ　それが、前任のさざなみ司令官が燃やしてしまわれました。

ネモ　（傍白）ちっ、あのクソ親父め。

レイ　灰だけでしたら、祠に神社に奉納してあるはずです。

ネモ　そんなものが役に立つか。

レイ　でも、人魚のたたりを恐れずに燃やしたこの勇気が、さざなみ司令官の魅力だったんですよ。

ネモ　恐れなかったと言っても、一年前さざなみ司令官の乗った船は、結局人魚のたたりにあって沈んだんじゃないのか。死んでしまっては元も子もない。

ネモ、プイと退場。

レイ　あれは、事故です。たたりじゃありません。

レイ、あわてて後を追う。

第三場

町はずれ。
タチ、女登場。

女　ポーズ！　そこでポーズ！　いいねいいね！　ちょっと顔上げ気味で！

女は何枚もタチの写真を撮る。タチはいちいちポーズをとる。

女　すみませーん。

女、客席に下りてカメラを預け、シャッターを押してもらう。２人、並んで記念撮影。

女　ピース！
タチ　さあ、卒業写真はこのくらいでいいだろう。
女　卒業写真じゃないでしょう、記念写真。
タチ　そう、その写真。いいかい、俺はこれからこの島を出るんだ。新しい世界で１からやり直すんだ。
女　それって変。やり直す、っていうのは何かしてきた人の言うセリフだわ。
タチ　俺が何もしてこなかったみたいじゃないか。
女　じゃあ何かしてきたのね。ねえねえ何をしてきたの？
タチ　俺は…、人魚を信じてきたんだ。
女　（がっかりして）１０年も２０年もよね。でも結局、島の人たちに信じてもらうことはできなかったんでしょ。
タチ　信じてきたのは俺なんだぜ。島の連中のことなんか知るものか。
女　本当に？
タチ　本当だ。
女　それならこの島を捨てなくてもいいんじゃないの？
タチ　そういうことじゃないんだ。
女　じゃあ、どういうことなの。
タチ　俺は人魚を信じてほしかったんだ。どこかで生きているなぎさも、きっと人魚を信じているって、１０年間そう思っていたんだ。
女　つまり、なぎささんのことを忘れるためにこの島を出るの？
タチ　そういうことじゃないんだ。
女　じゃあ、どういうことなの。
タチ　俺は、人魚が怖かったんだ。だって俺は人魚の子供に会ったことがあるんだもの。だからずっと怖かったのかもしれない。

女　美しい思い出が崩れるかもしれないからね？
タチ　そうじゃないんだ。
女　じゃあ、伝説を気にしているのね。
タチ　そういうことじゃないんだ。

ルー、レイ登場。

ルー　では、どういうことなの？　タチ・ヒロシさん。
タチ　！？　……。
レイ　驚かなくてもいいのよ。あなたの話を聞きにきただけなんだから。
女　（タチをかばいながら）邪魔しないで。大切な話なんだから。
ルー　あなたは誰？　この島では見かけない顔ね。
女　誰って言われても…。私は、わたしよ。

レイ、書類の束を取り出し、調べ始める。

レイ　（一枚取り上げて）あった。わ・た・し・の・サ・イ・ン。わたしのサインがしてあるわ。
ルー　では、タチ・ヒロシの元恋人ということですね、この失恋証明書によれば。
女　あーっ、そんなもの勝手に見るなんて、プライバシーの侵害よ。
タチ　そうだそうだ。
ルー　あなた、プライバシーの権利なんていうのは、国民としての義務を果している者に与えられるんです。あなたはどうですか？
レイ　そう、国民としての３つの義務。衣（い）食（しょく）住（じゅう）。
ルー　違うでしょう。
レイ　猪（いの）鹿（しか）蝶（ちょう）。
ルー　全然、違う。
タチ　白（はく）発（はつ）中（ちゅん）。
女　生麦　生米　生卵。
レイ　坊主が屏風に上手に坊主の絵を描いた。
タチ　隣の竹垣に竹立てかけたかったけれど、竹立てかけられなかったから、竹立てかけなかった。

うまく早口で言えたらみんなで拍手を。
途中でツカえたらみんなでガッカリしよう。

ルー　こんなことは常識です。国民の３つの義務といえば、勤労の義務、教育の義務、そして、…宿題にしておきましょう。でもタチ・ヒロシさん、あなたは働いていますか？

タチ　……。

女　（あわてて）もちろん働いているわ。この人は島の名物男、英語で言えばオベントってことでしょ。

タチ　（気づいて）タレント。

女　タレントってことでしょ。（なりきって）私はこの人のマネージャーなの。用事があれば私を通してちょうだい。

ルー　そう。私たちは彼に話を聞きに来たの、人魚のことで。

レイ　私たち、マーメイド・ビーチに人魚の声を聞きに行ったのよ。

タチ　本当かい？　本当に声が聞こえただろう！

ネモ登場。

ネモ　ところがとんだくわせものでね、人魚の声など聞こえやしない。私たちを誘い出すための罠だったというわけだ。

女　違う。本当に声はするのよ。

レイ　（気づいて）あなたは、昨夜の！

女　あ…。

タチ　そうさ。人魚は本当にいるんだ。人魚の伝説は今でも語り継がれているし、昔は図書館にも人魚の資料が山ほどあった。俺は人魚に会ったことがあるし、この町は世界中で一番人魚の国に近い島なんだ。

ネモ　それは昔の話だ。

レイ　水平線の向こう側へ逃げた人魚たちは、今では私たちに災いをもたらすようになった。島の人たちも本当は人魚を信じているかもしれない。でも、信じないようにしているのよ。

ルー　それはともかく、あなた以外に誰も人魚に会ったことはない。

女　わかった。あなたたちヤキモチを焼いているのね、この人は人魚に会っているのに、自分たちはないものだから。大人げないわよ、ヤキモチなんて。

サーシャ登場。

サーシャ　ヤキモチと言えば、大伴家持（おおとものやきもち）を思い出すわね。大伴家持は「万葉集」の中で“うらうらに揺れる波間に人魚のあと、こころ悲しも一人思えば”と詠んでいるわ。人魚は私たちに夢を与えてくれる、けれど気がつけばそれは、一人で見るにはとても悲しい夢。そんな意味の歌よ。

女　（しらけて）「万葉集」の２０巻４５００首の中に、人魚なんか出てこないわ。

サーシャ　少しは東洋の古典に心得があるようね。あなたは誰？　タチ・ヒロシとどういう関係なの？

ネモ　…誰と話している？（ネモには女が見えていない）
女　私は、この人のファンよ。
タチ　警備隊にそんなこと言ってもしょうがないだろう。
サーシャ　ファンね…。（タチに）タチ・ヒロシ、私の顔を覚えていますか。
タチ　？（徽章に気づき）そのしるしは、司令官…！
サーシャ　（ゆっくりと）警備隊司令官サーシャ・ナミです。あなたがたに聞きたいことがあります。
ルー　司令部まで来てもらえるかしら。
タチ　…俺は、これから行くところがあるんだ。
ネモ　どこへ行くの？
レイ　逃げようとしてもダメよ。あなたが人魚だってことはバレているのよ。
タチ　俺が？　この俺が人魚？　…どこが？
ルー　水平線の向こう側での事故は、あなたの失恋のせいかもしれないの。
女　失恋？　この人の？
ネモ　失恋証明書のデータがそう語っているの。
タチ　えーっ。い、いやあの失恋証明書は…。
レイ　来ていただけないなら連行します。

警備隊員たち、タチと女を取り囲む。

女　待ちなさいよ。
ルー　もちろん、あなたもよ。
女　え？！
ネモ　？…（女が見えていない）
タチ　話し合いで解決しようよ。ねっ。
４人　問答無用！

警備隊員たち、サァサァサァの間合いでタチと女を追いつめる。

タチ　（空のかなたを指して）あーっ！　空を見ろ！
女　鳥だ！
タチ　飛行機だ！
全員　いや、違う！　スーパーヒーローだ！

と言っている間に、タチと女は逃げ出す。退場。

ネモ　しまった。

ネモ、あわてて追いかけようとする。

サーシャ　スーパーヒーローなんか、いないじゃないの。
ルー　鳥しかいませんね。
サーシャ　期待したのに。
ネモ　そんなこと言っている場合か？！

ネモ、あきれながら、タチを追って退場。

レイ　そもそもスーパーヒーローって空飛ぶんですか？
ルー　そうよ、宇宙人だもの。
レイ　宇宙人？
サーシャ　何、その言い方。私、あのスーパーヒーロー、好みなんだけど。
レイ　宇宙人なのに？
サーシャ　ちょっと気に障るわね。宇宙人でも地球人でもイケメンはイケメンなの。
ルー　レイにはセンスがないんじゃない？
レイ　司令官、そんな言い方をしなくても。
ルー　蓼食う虫も好き好きですね。
サーシャ　レイも落ち着いて。
ルー　そのままお返しするわ。
レイ　もうこの話はお終いにしましょうよ。
ルー　いいえ。ここまで言われたら黙っているわけにはいきません！
サーシャ　そこまでは言ってないと思うわよ。
レイ、上官の命令が聞けないの！　あなたがそんなに頑固者だとは思わなかったわ！

２人、剣に手をかけ、険悪な雰囲気になる。今にも切り合いにならんばかり。
途中から様子を覗いていたタチ、思い余って仲裁に割って入る。

タチ　みなさーん。ここは穏便に。
３人　うるっさいっ！
タチ　もとは映画の話じゃありませんか。
３人　ほっといてよ！
タチ　ここはひとつ、私に免じて。
サーシャ　そう？　では。

タチ、ほっと一息つくと、３人の剣はタチの方を向いている。

タチ　ひえっ。

レイ　見事にひっかかったわね。
タチ　じゃあ、今のは…。
ルー　あなたをおびき出すためのお芝居です。

ネモ登場。剣をかまえる。

ネモ　こいつは驚いたな。かかれっ。

女が飛びこんできて、ネモの剣をはねとばす。（ネモには女が見えていない）
大立ち回りの末、女逃げる。タチ、追いつめられる。

タチ　どうして、俺が人魚なんだ。
レイ　まさか忘れたわけじゃないでしょう。１０年前の――
ネモ　人魚のダイアリーのことを。
タチ　（ふりきるように）そんなこと、俺には関係ないよ！

タチ、うずくまる。
突然の暗転。

ネモ　何よ、この霧は？
ルー　司令官！
サーシャ　どうしたの！
レイ　いません！
ネモ　そんなはずはないわ！
タチ　あっちだ、逃げていくぞ！
ネモ・ルー・レイ　どこです？！
サーシャ　浜辺かしら？！
タチ　ち、違う。港だ、港に決まっている！
ネモ　よし、追え！

溶明。４人退場。
タチ、姿を現す。

タチ　どうしてこうなるんだ。俺はただ、この島から出ようと思っただけなのに。
港…、港だなんて言うんじゃなかった。あそこに行けば舟があったのに。
もう港へは行かれない。だからって、この島にもいられない。だって俺は
警備隊に追われているんだもの。どうすればいいんだ？
…マーメイド・ビーチへ行こう。舟なんかなくたって、あそこにいけばき

っとなんとかなる。力がわいてくるんだ。海へ行こう！　俺には情熱と夢がある。それにこれさえあればきっと寒くはないさ。
そうさ、タチ・ヒロシっていうのは、今一番輝いている、カッコいい男の名前なんだもの。

タチ、コンロを抱えて、かっこよく、弾けるように去る。
女登場。タチの行方を見届けると、追って退場。

第四場

警備隊司令部。
サーシャ、レイ登場。遅れて、ネモ登場。

サーシャ　タチ・ヒロシの足どりは？
レイ　まだつかめません。マーメイド・ビーチの珊瑚礁の中を、一人で泳いで行くのを見た者がいるので、海に出たのかも…。
サーシャ　そう…。

ルー登場。

ルー　司令官。今度の無人調査艇もまた消息不明です。
ネモ　だから無人じゃダメなんだ。
レイ　水平線の向こう側では電波が乱れてリモコンが効かなくなりますし、強力な磁場で計器類もメチャメチャになりますからね。
サーシャ　だからと言って、誰かを死にに行かせることはできないわ。
ネモ　人魚のたたりね。
ルー　（おもむろに）で、これが。

ルー、サーシャに写真を渡す。

ネモ　それは写真じゃない。
ルー　そう。しかも写っています。
レイ　写真だものね。
ルー　人魚が写っているんです。

ネモ、レイ、あわてて写真をのぞきこむ。

サーシャ　無人調査艇が写したものね。
レイ　でも、調査艇は消息不明に…。
ルー　船が沈みそうになると赤外線カメラのシャッターが下りるように、バネでセットしておきました。それを伝書コウモリがここまで届けてくれたというわけです。
ネモ　…そんなアナログな！
レイ　この黒いのが人魚ですか？
ネモ　かわいげのない。
サーシャ　おそらくこれは潜水艇よ。これが潜望鏡、これが換気口。
ネモ・レイ　（顔を見合わせる）！

レイ　潜水艇？
ネモ　すると人魚が潜水艇を？　まさか。
レイ　（写真を受け取り）よく見るとクジラじゃないかしら、これ。
ルー　タチ・ヒロシが操縦しているのではありませんか？
ネモ　そうか、タチ・ヒロシはクジラを操っているのか。
レイ　クジラ使いだとは気がつかなかったわ。
サーシャ　（ルーに）でも、彼に潜水艇の操縦ができるとは思えない。あれは精神的にも肉体的にも技術的にも、かなりの熟練が必要よ。
ネモ　（つい）その通りだ。人魚の話一筋に生きてきたような奴には、潜水艇は操縦できん！
レイ　ネモさん。力が入りすぎです。
サーシャ　では、この潜水艇は何者なの？
ネモ　レイ。このクジラは何者だ？
レイ　私は、タチ・ヒロシがクジラを乗り回していると考えるよりも、この黒いもの自体が、災いをもたらす人魚の怨念だと考えるのが自然だと思います。
ネモ　（写真を受け取り）そのとおり。これは、人魚の怨念そのものだ。
サーシャ　そうねえ…。
ルー　（思い余って）私は、人魚は怨念なんか持っていないと思いますっ。
ネモ　ほぉ？
ルー　…いえ、もし、仮に、万が一、人魚がいるとしたらの話ですが…。
レイ　でも、人魚の伝説は、ほとんど嵐や遭難にまつわるものばかりよ。これが「愛することは、愛されてこそ報われる」という怨念のせいでなければ、人魚はなぜ災いをもたらすの？
ルー　レイ、思い出してよ。この島で語られてきた伝説の人魚たちは、もっと透明だった。（サーシャに）私には、人魚が報われようとして人を愛するとはとても思えません。愛すれば愛するほど愛が深まり、それが報われずに終わった時には大きな災いが訪れるのは確かです。しかし、それはかわいさ余っての憎しみのあまりに、人魚がもたらすわけではありません。人魚の愛が純粋だからこそ、悲しみが大きなエネルギーとなって天地を轟かすのです。怨念なんかじゃない。たとえ愛されずに終わろうと…。
3人　…たとえ愛されずに終わろうと？
ルー　大きな悲しみに襲われようと…。
3人　…大きな悲しみに襲われようと？
ルー　人魚の「愛する心」は決して変わらないと思います！

感動の嵐！

サーシャ　なかなか言うじゃない。
レイ　特に『愛する心は決して変わらないと思います！』のところなんか。私、

涙が出てきちゃいました。
ネモ　ひさしぶりに、歯の浮くようなすがすがしさを感じたな。
ルー　私は真面目に言っているんです！
ネモ　わかったわかった。
ルー　わかっていません。この島でずっと育ってきた者の、人魚に対する思いが、本国から来たあなたには、わからなくなっているのよっ！
ネモ　いいや、わかったとも。君が本当は人魚を信じているってことがね。
ルー　（あわてて）い、いえ。この島の人々はそう考えている、ということです。
レイ　そうよね、レイ。
サーシャ　え？　ええ…。
2人　ルー、さっきの写真を鑑識にまわして。レイはその後のタチの足どりを追ってちょうだい。
ネモ　はいっ。
（ルーに）怨念だの悲しみだのいうのは、しょせんは意識の集合体にすぎん。見る人間次第で、潜水艇にもクジラにも見えるものだ。よーく覚えておけ。

ネモ、写真をピッと投げ捨てる。ルー、拾う。
ネモ、レイ、ルー、バラバラに退場。

サーシャ　「愛することは愛されてこそ報われる」か。（気配に気づき）誰？そこにいるのは。

女、現れる。

女　それは伝説についての一つの解釈にすぎないわ。
サーシャ　どこからきたの？　警備隊の司令室は観光ルートには入っていないはずよ。
女　１００人の人がいれば、その解釈は２８６通りよ。
サーシャ　２８６？　１００人にしては数が多すぎるわ。
女　人は人魚について最低３回は解釈を変えます。
サーシャ　数が足りなくなるわ。
女　（とってつけたように）足りない１割は、人魚について真面目に考えようとしない人たちよ。
サーシャ　うまくまとめたわね。それで、何の用？
女　あなたは、タチ・ヒロシについて何か知っている。
サーシャ　…それで？
女　あの人の恋人だった、なぎさという女の子のことを聞きたいの。
サーシャ　知らないわ。
女　あの人は今でもなぎささんのことを愛しているの。

サーシャ　そう。
女　生きているのかどうかもわからない、そんな人のことを１０年間ずっと待ち続けてきたの。
サーシャ　それはただのポーズよ。タチ・ヒロシは待ち続ける男を演じることで、自分の不幸を確かめていたんだわ。
女　あなたにはわからないの？
サーシャ　わからないわ。１０年なんて途方もなく長い年月よ。その間、タチ・ヒロシは何をしてきたというの。未来に向かって踏みだすこともなく、過去の思いを振り切ることもなく、ただ毎日を刹那的に生きてきた。そうして気がついたら１０年が経っていた。それだけのことよ。
女　違う。あの人は、自分に正直に生きてきたんだわ。
サーシャ　そうね、正直な生き方だわ。傷ついたふりをしながら、傷つくことなくいきてきたんですもの。タチ・ヒロシは結局、傷つきたくなかっただけなのよ。
女　誰だって、傷つきたくなんかないはずよ。
サーシャ　…とんだヒューマニズムね。
女　もういい。私、恩返しをしなくちゃ。あの人を幸せにしてあげなくちゃ。
サーシャ　無理よ。あの人は自分を「不幸」の中に閉じこめようとしているんだから。…さあ、来た場所からお帰りなさい。今日のところは見逃してあげるわ。
女　ありがと。（去りかけて）私ね、あなたに似た人を知っている。この島のことを思い、恋人にも黙って本国に旅立った彼女は、恋人が自分のことを忘れて新しい恋を見つけてくれるのを願っていた。それでも船が水平線を越え、デッキから見える島影が波の向こうに消えたとき、こらえきれずに小さくつぶやいた。「さよなら」　悲しみがこみ上げてきて、気持ちを抑えきれずにもう一度、声に出して「さよなら」…「さよなら」…「さよなら」　そんな気持ちが堰を切ったように溢れだしてくる…「さよならーっ」悲しみの大きなエネルギーが天地を轟かし、大きな稲妻がマストから船体までを真っ二つにした。船は一瞬にして沈んだ…。一小さかった私は一部始終を見ていたけれど、助けられるのは一人だけ。だから彼女を、本国に送り届けたの。それが、昔、私を助けてくれた彼女の恋人への、恩返しだと思ったからよ。彼女の名はさざなみなぎさ。…私ね、あなたがその人じゃないかと思っていたの、タチ・ヒロシの恋人だった。

女、いなくなる。

サーシャ　（一人つぶやく）…私もそう思っていたことがあった。でも今は違う。

サーシャ退場。
海を感じさせる懐メロが流れる。

ネモ登場。

ネモ　おいおい。いくら沿岸警備隊だからって、館内ＢＧＭにこの選曲はないんじゃないのか。

ネモ、言いながら音響スタッフに近づく。

ネモ　（あたりを気にしながら）…新しい情報が入ったのか？　うん。本国からの報告？　何？あの女が、前の司令官の忘れ形見かもしれないって？　…サーシャ・ナミが、本国の士官学校の名簿に登場するのが１０年前。そして同じ頃、当時のさざなみ司令官の娘「さざなみなぎさ」がこの島から姿を消していると。…すると「さざなみ」が「サーシャ・ナミ」か。たしかにこの島で、さざなみ家と言えば代々の名家。島の連中に妙に人気があるのも、持って生まれた血だと思えば納得できる。本国はそれを知っていて、彼女をこの島の司令官として着任させたのか？　なぎさ？どこかで聞いたな。…そうだ、人魚のダイアリーの持ち主で、クイーン・スコチア号の乗客だ。…だが、それならば、サーシャ・ナミはさざなみなぎさではありえない。たしかにクイーン・スコチア号の遭難は謎だらけ。突然の嵐と落雷が、ほんの一瞬で全てを奪ってしまったという。荒れ狂う海から助かったうえに、何千キロも離れた本国にどうやってたどり着くことができるというんだ。
…そう言えば、溺れていたタチ・ヒロシを、潜水艇が救助したというのは本当か？　ふん、レイの判断で…。（少し考えて）やむをえん。役には立たんが、害にはなるまい。しかし…、ん？（人の気配に気づく）いいや、サーシャ司令官にはこんな軟弱な曲がお似合いかもしれないな。

サーシャ登場。

サーシャ　ネモ、またスタッフをからかっていたの。気をつけないと評判悪いわよ。
ネモ　若い人が増えましたからね。年寄りは嫌われ者と相場が決まっています。
サーシャ　今日もこんな投書がきていたわ、あなたが陰謀を企んでいるって。
ネモ　ほう。そいつは穏やかじゃありませんね。
サーシャ　そうね、穏やかじゃないわ。
ネモ　それで？
サーシャ　それだけ。もしこれが本当だとしても、きっとあなたなら巧妙にやってのけると思うもの。決して尻尾なんか出さない。違う？
ネモ　妙な誉められようですね。
サーシャ　それだけ優秀な副司令官ってことよ。
ネモ　（苦笑いして）一体どこまで本気なんでしょうか。

サイレン。

ネモ　何事だ。

レイ、飛びこんでくる。

レイ　潜水艇が浮上しました！　（サーシャに気づいて）猛スピードでマーメイド・ビーチの珊瑚礁の中に突っ込んだんです。

ルー、タチを連れて登場。

ルー　乗組員は１２名、全員逮捕。そのうち１名はタチ・ヒロシと確認されました。

ネモ　残りの１１名は？

ルー　酸欠状態で重体のため、病院で手当てをしています。

サーシャ　こいつが人魚の怨念の正体ね。

ルー　ただ、司令官、乗組員の中でタチ・ヒロシだけが妙に浮いているんです。

ネモ　奴が首謀者ってことだ。

ルー　そんなふうには見えませんが。

ネモ　人を見かけで判断するの、ルー。

タチ　俺はあいつらに捕まったんだ。潜水艇の操縦なんてできるもんか。牢屋にいたんだぞ。暖房もないからレンタンたいて暖まっていたんだ。今だって夕飯の魚を焼いていたところに、警備隊が乗り込んできたんじゃないか。俺の夕飯を返せ、魚を返せ！

ネモ　やかましい！（レイに）タチ・ヒロシを独房へ！

サーシャ　話はあとでゆっくり聞かせてもらうわ。

レイ　はいっ！

レイ、タチを連れて退場。

ルー　まったくタチ・ヒロシらしいですよ。密閉された潜水艇の中でコンロをたいているんですから。おかげで館内は酸欠状態になってしまい、私たちは労せずして潜水艇を捕獲したというわけです。

サーシャ　潜水艇の特徴は？

ルー　はい。見たこともないタイプです。艦体はレーダー波を吸収する超合金、探知機に反応しないわけです。速度もかなり出るようですし、高度な技術力を駆使して造られています。レイと相談の上、とりあえずそのままの状態で係留してあります。おそらく、本国のものではないと思われます。

レイ登場。

ネモ　ルー、もういい。まずは一安心というわけだ。明日からはいよいよ、ラブスターズデイの祭りでしょう。準備はいいの。

ルー　あ、そうですね。

サーシャ　この島最大のお祭りの始まりよ！

4人、気勢をあげる。サーシャ、ルー、レイ退場。

ネモ　全員捕まっただと…。いや、潜水艇が無傷なのが不幸中の幸い。だが、あの船が5年前まで本国を荒し回っていた海賊船『ノーチラス号』とわかるのに、それほど時間はかかるまい。そろそろ引き上げ時だか。と、すれば…。

ネモは司令部を出て、最高機密端末室に忍び込む。コンピューターのデータをハック。ノーチラス号のデータ書き変える。

ネモ　ノーチラス号のデータの書き変えなど子どもだましだが、ないよりはましだろう。（妙案を思いつく）いや、こいつを使って一騒ぎ起こしておくか。（ニヤリとする）

ネモの含み笑いが、不気味に響きわたる。

第五場

ショータイム

声　Ｉ　レディース&ジェントルメン。親愛なる紳士淑女諸君。ここでひととき、ショータイムでおくつろぎください。まもなくラブ・スターズ・デイ。天の星と海の人魚が水平線を越えてめぐり会う、年に一度のフェスティバル・マンスリー。ラストウィークには、王女様のご訪問も予定されております。Ｉｔ‘ｓ Ｓｈｏｗ Ｔｉｍｅ！

ＳＨＯＷ　ＴＩＭＥ

1.

レイ、ネモ登場。
ショータイム終わる。

レイ　（責めるように）ネモさん。ノーチラス号はこの島の自然のために、人魚の伝説を守るために、戦っていたのではないんですか？

ネモ　なぜ、そんなことを聞く。

レイ　浮上したノーチラス号は、この島のまわりで、マーメイド・ビーチの珊瑚礁の沖で、海底資源を採掘していたそうです。それでは自然破壊ではありませんか。

ネモ　タチ・ヒロシを助けたりしなければ、何も起こらなかった。そんなことにも気づかずにすんだのにな。

レイ　私をだましていたのね！

ネモ　君はもともと１３番目の乗組員だったんだよ。

ネモ、レイを撃つ。銃声。レイ、崩れ落ちる。
ネモ隠れる。ルー、飛び込んでくる。

ルー　何、今の銃声は！（レイに気づき）レイ、しっかりして！

ネモ、姿を見せる。

ネモ　どうした！（ルーを押し退けて）レイ、どうした、レイ、レイ！

ルー　…ルー！（にらみつける）

（あわてて首を横に振る）

ネモ　本当だろうな。（レイの死体を調べ）至近距離からの一発、即死だ。…顔見知りの犯行だな。
ルー　…そんな。あの人が…。（書類を手にしている）
ネモ　何だ、それは。（書類をひったくり、目を通す）サーシャ司令官が…。口封じというわけか。

ネモ、ルーに書類を返す。

ネモ　ルー、館内に非常線を張れ。
ルー　いえ、そんなことをすれば他の隊員が動揺します。私が。
ネモ　…そう。では、私はレイの亡骸を部屋まで運んでやろう。一番大切な部下だったのだからな。
ルー　……。

ルー、気持ちを振り切るように退場。
ネモ、見送ると、ニヤリと笑い、レイを抱えて退場。

2.

ルー登場。

ルー　司令官！（銃を構える）

サーシャ登場。

サーシャ　どうしたの。…？！　ルー、悪い冗談だわ。
ルー　確かに悪い冗談です。信じていたのに。
サーシャ　何が起こったの？！　それともクーデター？！
ルー　今さら何を！（書類を投げる）あの潜水艇のデータです。
サーシャ　（拾って読む）潜水艇『ノーチラス号』／本国の戦艦、空母、貨物船、タンカーを次々と襲っては沈めている魔の海賊船。指揮官の名はサーシャ・ナミ。…私？！
ルー　そして、事実を知ったレイさんまで殺した…。
サーシャ　レイを？！　レイがどうしたの？
ルー　動かないで！　今さらじたばたするなんて、司令官らしくもない。
サーシャ　どうするの。
ルー　撃つ！

ルー、発砲。手が震えて狙いが大きくそれる。

ネモ登場。ルーの銃を取り上げる。

ネモ　やめておけ、ルー。お前には無理だ。
ルー　…。

サーシャ、壁際に駆け寄る。

ネモ　（銃を構える）おっと司令官、忠告しておきましょう。警報装置を押しても、ここにはあなたの味方はいない。ノーチラス号の指揮官、サーシャ・ナミにはね。
サーシャ　私には訳がわからないわ。
ルー　司令官、みんなあなたを信じていた。それなのに、部下に銃を向けるなんて。
サーシャ　狂っている。何かが狂っている。
ネモ　狂っているのは、あなただ。（ルーに）査問委員会に連絡を。
ルー　でも…。
ネモ　これ以上、殺人者を見逃すわけにはいかない。
ルー　…連絡してきてくれませんか。
ネモ　お前に、この殺人者を任せるのは危険だな。
ルー　…。

ルー、飛び出していく。

ネモ　驚いたな。裏ではタチ・ヒロシと通じて、潜水艇を操っていたなんて。いや、若くして出世したやり手の司令官なら、考えそうなことだと、誰にも納得できる。
サーシャ　私ではないわ。いずれ真相はわかるでしょうけど。
ネモ　あなたに「いずれ」があるとは思えない。
サーシャ　どういうこと？
ネモ　あなたには、怨念が取りついているからだ。この島の開発や科学の発達によって追い詰められていった、人魚の怨念がね。
サーシャ　人魚の怨念？
ネモ　（フッと冷笑する）
サーシャ　証拠はあるの？　たとえば、目撃者の証言。
ネモ　人魚を見た者は二度と生きては帰れません。
サーシャ　写真は？
ネモ　狐狸妖怪のたぐいは写真には映りません。
サーシャ　声を録音したテープは？
ネモ　雑音が入って聞きとれません。

サーシャ　手がかりは一つもないじゃない。
ネ　モ　伝説があります。
サーシャ　２００年も３００年も前の伝説ね。
ネ　モ　人魚は永遠に不滅です。その証拠に、前の司令官も人魚に呪われていた。あなたの父親、さざなみ司令官のことよ。
サーシャ　なぜ、それを…。
ネ　モ　やっぱり本当だったのか。ノーチラス号の指揮官が、あの「人魚のダイアリー」の少女なぎさだったとは、筋書きは完璧だ。疑うものは誰もいない。―あわれなものだな、サーシャ司令官。私の忠告を聞き、水平線の向こう側で謎の死を遂げていれば、あなたもさざなみ司令官のように英雄でいられたのに。
サーシャ　ネモ、やはりあなたが父を…。ノーチラス号も…。
ネ　モ　何かな？　ノーチラス号の指揮官は、あなたなんですよ。
サーシャ　こんなことがバレないとでも思っているの？
ネ　モ　司令官の地位さえ手に入れば、手荒な真似をしなくても、この島の豊富な資源は私のものになるはずだった。だが、もう遅い。この島に用はない。病院の仲間を残して逃げるの？
サーシャ　動けん奴に用はない。やむをえない、これも追い詰められた人魚の怨念のせいだと思えばな。
ネ　モ　（理解して）…あなたは人魚を信じていない。
サーシャ　（ニヤリとして）…そんなもの、いるわけがない。
ネ　モ

女が姿を現す。サーシャ、神がかって。

女・サーシャ　人魚は永遠に不滅よ！
ネ　モ　え？
女　いると思えばいるし、いないと思えばいない。
ネ　モ　え…。（女に気づき）何者だ、お前。

ネモ、銃を撃つが、女は平気である。サーシャ、その間に逃げる。
ルー登場。

ル　ー　副司令官！司令官は？
ネ　モ　あっちだ！

警報ベルを鳴らす。ネモ、ルー、後を追う。

3.

警報ベルの中。女、タチ登場。

女　さあ、今のうちよ。
タチ　ふーっ。おかげで助かったよ。独房って寂しいんだ、話し相手はいないし。潜水艇の中にいるほうがまだ楽しかった。乗組員たちは、人魚の話だけはおもしろそうに聞いてくれたもの。
女　そうでしょう。人魚を信じているのはあなた一人じゃないのよ。
タチ　うん、そうかもしれない。でもこんなこと言っていた。人魚はもう、この世の中にはいないんだ、って。
女　あなたもそろそろ信じられなくなってきたの？
タチ　（無視して）ねえ、人魚って死ぬと泡になるんだろう。
女　そうよ。人魚には魂がないの。だから、死ぬと泡になるの。
タチ　…俺、このあいだ人魚を見たんだ。
女　え？
タチ　潜水艇の窓越しにね。潜水艇が人魚の群れに突っ込んでゆくんだ。はねとばされた人魚たちが、まるで怨念みたいに潜水艇にとりついてゆく。だけど乗組員たちは顔色ひとつ変えやしない。まるで、そんなことには気づいていないみたいに。
女　…。
タチ　俺はずっと思っていたんだ。俺が信じていた泡になってしまう人魚たちと、怨念となってとりついてゆく人魚たちと、どっちが本物なのかな、って。
女　それで、どっちなの？
タチ　俺は人魚を信じているんだ。
女　（おそるおそる）じゃあ、泡になった人魚たちが本物？
タチ　そうじゃないんだ。人魚を信じて欲しかったんだ。
女　（とまどって）それじゃ、どっちが本物かわからない…。
タチ　そうじゃないんだ。人魚が怖いんだ。
女　（あせって）じゃあ、怨念になった人魚たちが本物？
タチ　そういうことじゃないんだ。俺は人魚を信じていたい。そうだよ。俺は、ずっとそう思ってきたんだ。
女　信じていたい？　このうえ何を信じるの？
タチ　（思い立って）俺はこの島を出るんだ。人魚を助けに行くんだ。
女　人魚はあなたを待ってはいないわ。
タチ　え？
女　ううん。…これ、はい。（写真を渡す）私を忘れないでね。
タチ　（見て）俺の写真じゃないか…。（気づいて）これ、もしかしてあの時の写真？

女　そう。私たちの卒業写真。
タチ　だけど、君が写っていない！
女　あなただけが見えていればいいのよ。
タチ　なぜ？
女　私はあなたのファンだもの。…私、帰るね。（去りかける）
タチ　ちょっと待てよ。

タチ、女の肩をつかむ。が、空を切る。

女　いると思えばいるし、いないと思えばいない。でも、もう、触れることはできないわ。
タチ　まさか。

タチ、女をつかまえようとするが空をつかむ。

タチ　だめだ、見えているのにつかまえられない。

女消える。タチ、女を追って去る。しかし、それは幻を追っているようにしか見えない。

4.

サーシャ登場。隠れる。
追ってネモ、ルー登場。ルー、飛びだして行く。
サーシャ、ネモの背後から近づき、剣を突きつける。

サーシャ　なぜこの島を狙ったの？　そのために何人もの人を殺したの？　自分の利益のために、あなたは何も見えなくなった。
ネモ　何を見ろと言うのか。
サーシャ　青い空、緑の海、赤い夕日、白い珊瑚礁、小麦色のマーメイド。この色とりどりの風景が、あなたにはどう見えているの。
ネモ　満月の光の中では、何もかもが白と黒だ。

銃声。サーシャ、はっとして逃げる。
ルーが銃を持って登場。ネモ、ルー、サーシャを追って退場。

5.

タチ、女の幻に誘われて通りすぎる。

6.

サーシャ登場。同時に、ネモ、ルー登場し、二手にわかれる。
サーシャとルーが顔を合わせる。ネモは知らずに退場。
ルー、銃を構えるが、サーシャは無言で何かを訴える。ルーはそれに気づく。サーシャ退場。
やや考えて、ルーも退場。

7.

舘、女の幻に誘われて通りすぎる。

8.

サーシャ、追手を気にしながら登場。反対側からネモ登場。
同じように、後ろ歩きで近づいてゆく。背中合わせになって、はっと気づく。かと思いきや、すれ違う。それぞれ、気配に気づいて振り向く。銃声。
サーシャの銃が跳ばされる。

ネ　モ　いい加減に観念したらどうだ。
サーシャ　私がただ逃げ回っているとでも思っているの。あなたの企みを見抜けなかったとでも思っているの？
ネ　モ　（フフフと笑う）
サーシャ　一つだけ言えることがあるわ。「善は急げ、悪はゆっくりと」　悪事を急いだあなたに勝ち目はない。
ネ　モ　司令官、手が震えていらっしゃるようね。壁の方を向け！

サーシャ、壁側を向く。ネモがスイッチを入れると、サーシャは仕掛け（おそらくカプセル）に閉じ込められる。

ネ　モ　もう少し、生きていてもらわねばな。

ルー登場。

ル　ー　やりましたね、副司令官。

ルー、握手するふりをして、ネモの銃を取りあげ、構える。

ネモ　何の真似だ。
ルー　今入った情報です。入院中のノーチラス号の乗組員たちが、うわごとで副司令官の名を呼んでいるそうです。何か心当たりは？
ネモ　…べつに。
ルー　それともう一つ。よく調べてみると、ノーチラス号のデータファイルが、どうも書き変えられているらしい。もとのデータに記録されている指揮官の名は、ネモです。
ネモ　…そいつは奇遇だな。驚いた。
ルー　心当たりは？
ネモ　…うっ。（口の中に毒のカプセルを放り込み、自殺を図って倒れる）
ルー　しまったっ、毒を！

ルー、駆け寄る。ネモ、体を起こすと、ルーの体を蹴り上げる。

ネモ　甘いな。そう簡単に死ぬと思ったか。

ルー、サーシャの銃を拾う。撃つ。
ネモ、ゆっくりと自分の銃を拾って、逃げる。
ルー、壁のスイッチを押してサーシャを助ける。

サーシャ　ありがとう、ルー。
ルー　申し訳ありませんでした、司令官。まさかこんなことになるなんて。今はまだ、警備隊員は様々な情報で混乱しています。確実に副司令官を、ネモを追えるのは、私たちだけです。
サーシャ　手分けをして行きましょう。
ルー　はい。
サーシャ　（去り際に）気をつけて。

２人、別々にネモを追う。

9.

タチ、女の幻に誘われて現れる。

タチ　だめだ。見えているのにつかまえられない。

タチ、がっくりとひざを落とす。
あたりを警戒しながら、ルーが横切る。

タ　チ　…俺は人魚を見たんだ。小さい頃人魚の子供を助けたんだ。あれがおれの不幸の始まりだった。

足早に、ネモが横切る。

タ　チ　人魚の運命は「愛することは愛されてこそ報われる」っていうんだって。愛することだけでは幸せにはなれない。愛されることを望んでしまう。…でも、そうなんだろうか。俺は人魚を信じていたい、ずっとそう思っていたのに。

女が現れる。サーシャ登場。知らずに女に導かれている。人の気配に銃を構えるが、すぐタチだと気づく。

サーシャ　タチ・ヒロシ、何をしているの。危険だわ。

タ　チ　…。（声の方を振り向くが、サーシャに気づかない）

サーシャ、黙ってタチの様子を見守る。

タ　チ　…不思議だよな。見渡す限りの大海原、どこまでも続く水平線、降り注ぐような満天の星。こんなにすばらしい世界なのに、つらく悲しい人魚姫の伝説なんて…。いにしえの人々はなぜ伝説の行方をさがそうとはしなかったのだろう。（ふと気づいて）もしかしたら、人魚は見てはいけないものだったのかもしれない。決してつかまえられないものだったのかもしれない。だからこそ、人魚はいつまでも伝説のままでいられたのかもしれない。だけど俺は…、人魚を見てしまったんだもの…。

サーシャ、なぎさになる。二人のまわりだけ、ほかとは違う空気が漂うかのようだ。

サーシャ　ヒロシさん。

タ　チ　え？（振り向く）

サーシャ　誰だかわかる？

タ　チ　（うなづく）なぎさだろ。さざなみなぎさ。

サーシャ　（微かに笑って）忘れられているのかと思ってた。

タ　チ　忘れるもんか。いつか、こんなふうに逢えると思ってた。１０年前、人魚のダイアリーの噂を聞いた時、君は無事だ、そんな気がしていたんだ。いつこの島に戻ってきたの？

サーシャ　一年前。去年のラブスターズデイに。

タ　チ　そいつは素敵だ。
サーシャ　でも、私たちはめぐりあえなかった。
タ　チ　…雨だったんだ、たしか。
サーシャ　ううん。きれいな星空だった、とても。
タ　チ　そうだっけ。覚えていないな。
サーシャ　…相変わらずみたいね。
タ　チ　うん。この島も、１０年間、何一つ変わっていない。クイーン・スコチア号が沈んで、たくさんの人が悲しんで、人魚のせいになって、暴動が起こりそうになっても。ビルが建って、車が走って、飛行機が飛んで、観光客が増えても。この島は何も変わらない。
サーシャ　それでも、私たちは１０年分、歳をとってしまっている。
タ　チ　変わってないんだ。青い空、緑の海、赤い夕日、白い珊瑚礁、小麦色のマーメイド。海には男のロマンがある。そして、君がいる。何一つ変わらないんだ。君も変わっていない。
サーシャ　そう？
タ　チ　うん。
サーシャ　でも、誰でもきっかけを見つけては少しずつ変わって行こうとするものよ。
タ　チ　俺はだめだよ。変われないんだ。一からやり直そうとしたこともあったけど、結局連れ戻されてしまったもの。俺にはいつだって不幸な伝説がつきまとっているんだ。
サーシャ　それは違うと思うわ。あなたに伝説がつきまとっているというより、伝説にあなたがつきまとっているように見える。
タ　チ　だけど、俺は小さい頃――
サーシャ　（さえぎって）私も人魚を見たわ。１０年前のあの日。その時は気づかなかったけれど、今ならそうだと言えるわ。あの不思議なぬくもりもはっきりと覚えている。人魚を見たのは、あなた一人じゃない！　…人は人生のうちで最低３回は人魚に対する解釈を変えるそうよ。そして、一つの解釈しか信じられない一割の人たちは、人魚について真面目に考えようとしない人、あなたよ！（なぜか涙が止まらない）
タ　チ　なぎさ…。
サーシャ　私はもう、さざなみなぎさじゃない。９年間の本国での生活を終え、今はこの島の治安の責任を負う、沿岸警備隊司令官サーシャ・ナミ。さざなみなぎさはもう、いないのよ。
タ　チ　…？
サーシャ　さよなら。たぶん、これが最後ね。
タ　チ　…俺にはわからないよ。女ってやつは、どうして泣きながら別れ話をするんだろう。俺はなぎさに会った。死んだと思ったなぎさに会った。これが泣くほど悲しいことなのか。これが俺の不幸なのか…？

二人の空気を引き裂く銃声。タチの体がゆっくりと崩れる。
サーシャ、ぼうぜんと立ちつくす。

サーシャ　（声にならない悲鳴）

同時に突然の稲妻と落雷が襲いかかる。地震。
ネモ、姿を現す。

ネ　モ　…。（改めて銃をサーシャに向ける）

ルー登場。

ル　ー　あぶないっ！

ルー、サーシャに体当たりする。２人逃げる。

ネ　モ　余計なことを。

ネモ、姿を消す。

女　…何もしてあげられなかった、あなたのために。

女、タチの魂を星にする。キラリン。女は海に帰ってゆく。

町は炎の海。消防車のサイレン、けたたましく。
町が見渡せる丘の上。サーシャ逃げてくる。

サーシャ　ああ、図書館から炎が。このままでは町中が焼け野原になってしまうわ。
（頭を抱える）

マーメイド・ビーチ。ネモ現れる。

ネ　モ　（あたりを見ながら）何だ、この様子は。（ＩＤカードを見せて）副司令官のネモだ、例の潜水艇はどこに？　何？まさか。（走って行く）どういうことだ？！　落雷？ついさっき？そんなバカな。あの頑丈なノーチラス号が、たかが一度の落雷ぐらいで、あとかたもなく砕け散るものか！　その瞬間、町中のビルというビルが音をたてて崩れ落ちた？　…それはもう、落雷なんかじゃない。災いだ。

ルー登場。

ルー　災いなんかじゃない。おそらく人魚が一人、どこかで大きな悲しみに襲われて、そのエネルギーが天地を轟かしたんです。

ネモ　そんなえたいのしれないものに、科学を駆使して造られたノーチラス号があっさり破壊されるものか。

ルー　いると思えばいるし、いないと思えばいない。それでも人魚はそこにいる。

ルー、ネモを撃つ。ネモの最期。

ルー退場。言いようもない寂しい旋律が響きわたる。

女現れる。

サーシャ　…この町にはもう何もないのね。

女　愛が報われずに終わった時に…

サーシャ　私の使命はこの島を守ること。

女　大きな災いが訪れるのは確かです。

サーシャ　町中の人間を総動員して…

女　けれどそれはかわいさ余って憎しみのあまりに…

サーシャ　突貫工事で復旧作業よ。

女　人魚がもたらすものではありません。

サーシャ　ノーチラス号も砕け散った。

女　その愛が純粋だからこそ

サーシャ　人魚の資料は焼け失せた。

女　悲しみが大きなエネルギーとなって…

サーシャ　タチ・ヒロシも、もう…（悲しみがこみあげてくる）もう、いない！

落雷。サーシャ、その衝撃で崩れ落ちる。

女　天地を轟かすのです。

ルー登場。

ルー　司令官！（サーシャを抱き起こそうとして）泡になりかかっている。司令官、なぜ、なぜ人魚のように死んでいくのですか？　…司令官！

これが、この島で人魚の伝説として語り継がれてきたものの正体だったんですね。本国の王女様にご報告いたしましょう。この物語が、長く語り継がれるように。

ルー、退場しかける。

女　　人魚は永遠に不滅。

サーシャ　（起き上がりながら）いいえ、私は伝説には惑わされない。

ルー、振り返る。

女　　古くからの言い伝えは

サーシャ　伝説を越えてゆけ！

女　　人魚の声に耳を貸すと、

サーシャ　伝説を越えてゆけ！

声F・G　　不幸になる

声　H　　不幸になる

女　　不幸になる…

サーシャ　今こそ、伝説を越えてゆくんだ！

サーシャは、伝説を越えながら立ち上がった。その姿は、人魚が２本の足を持ち、自らの歩きだそうとするかのように見える。女は海の中へ消える。潮の流れ。渦。

あらゆる光はサーシャのもとに集まり、サーシャもまた、まぶしいくらいに輝いている。

―――　幕　―――

（上演時間　１時間４０分）